

総務省国立研究開発法人審議会 宇宙航空研究開発機構部会（第13回）

1 日時 平成29年12月8日（金）15：00～16：00

2 場所 総務省 第3特別会議室（11階）

3 出席者

（1）委員（敬称略）

梅比良 正弘（部会長）、水野 秀樹（部会長代理）、知野 恵子（以上3名）

（2）専門委員（敬称略）

末松 憲治、藤野 義之、藤本 正代（以上3名）

（以上6名）

（3）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

坪井理事、山本理事、石井経営推進部長

（4）総務省

翁長宇宙通信政策課長、中谷宇宙通信政策課衛星開発推進官

4 議題

（1）宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標（案）について

（2）その他

議 題

【梅比良部会長】 それでは、ただいまから総務省の国立研究開発法人審議会宇宙航空研究開発機構部会の第13回を開催したいと思います。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

初めに、本日の会議の出席者につきまして、委員3名中3名が出席しておりますので、定足数を満たしていることを報告させていただきます。

それでは、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

【中谷推進官】 配付資料については議事次第に記載の通り配布してございます。

参考資料につきましては、タブレット端末内にごございます。過不足等ございましたら、事務局までお願いいたします。

【梅比良部会長】 よろしいでしょうか。

それでは、お手元の議事次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。

議 事

(1) 宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標（案）について

【梅比良部会長】 まず、議題1宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標案についてでございます。事務局から説明をお願いいたします。

【中谷推進官】 資料1から4に基づきまして、ご説明をさせていただきます。いま一度、位置付けを確認させていただきますと、資料1が中長期目標の案の本文、資料2がその別添となる政策体系図でございます。資料3も同じく中長期目標に添付する評価軸、指標、モニタリング指標の案でございます。資料の4につきましては、こちらは正式に中長期目標に添付するものではございませんけれども、これまでの委員、専門委員からのご意見を踏まえまして、評価の視点、指標という形で整理をさせていただいたものでございます。

そうしましたら、順番が前後して恐縮でございますけれども、まず資料2をご覧ください。できればと思います。いま一度、この政策体系図全体像をご説明させていただきます。

左側に、まず宇宙基本法がございます。これに基づきまして、宇宙基本計画が策定され

ております。ここで、3本柱を挙げてございます。委員からのご意見で科学探査に関する記述がないのではないかとのご指摘をいただいたところでございますけれども、こちらは現在の宇宙基本計画を事実関係として記載したものでございますので、その旨、申し上げさせていただきます。

同じく、こちらの宇宙基本計画、閣議決定でございますけれども、同列に当たるものが科学技術基本法に基づく基本計画、政府の方針でございます。その科学技術基本計画に沿う形で、航空分野における文部科学省の方針ということで、航空科学技術分野の研究開発の方針が定められているところでございます。

そのほか、JAXA法がございまして、機構を取り巻く環境の変化を踏まえまして、今般第4期中長期目標の策定させていただくところでございます。

こちら一番下に4つの取組方針を記載してございますが、前回から反映した点といたしましては、左下の1つの取組方針でございます。こちらは科学探査分野において、国際的プレゼンスの向上に比重が置かれ過ぎているのではないかとのご指摘がございましたので、表題といたしましても、世界最高水準の成果の創出ということを追記させていただいているところでございます。

そうしましたら、資料1に戻っていただきまして、前回からの変更点及び委員、専門委員からのご意見の反映状況について中心にご説明をさせていただきたいと思っております。いま一度、全体構成をおさらいさせていただきます。表紙をおめくりいただきまして、目次、2ページ目、3ページ目でございます。

まずⅠ、政策体系とJAXAの位置付け、役割でございます。Ⅱが中長期目標の期間が7年間になるというところでございます。Ⅲが具体的な取組でございますが、新たに、1ポツ、2ポツを項立てをして分離をしております。1ポツが取り巻く環境変化、2ポツが取組方針、内容については大きくは変更しておりません。個別プロジェクトにつきましては、3ポツでプロジェクトの実施ということで、3.1から3.1.1まで宇宙政策の目標達成に向けたプロジェクトを記載しております。4ポツがこれらの横断、分野横断的な研究開発等の取組でございまして、5ポツが宇宙科学技術という構成になっております。Ⅳポツがこの目標達成を支えるための重要事項について記載しております。

3ページ目に行ってくださいまして、Ⅴポツが業務運営の改善、効率化に関する事項、Ⅵポツが財務内容の改善に関する事項となっております。そういたしましたらば、委員、専門委員からのご意見、コメントを踏まえて、修正をした点を中心にご説明をさせていた

できます。

まず、5ページ目に行っていたいただければと思います。ここはIポツの政策体系におけるJAXAの位置付け、役割に関するところがございますけれども、1.1のところ、安全保障の確保というところの1パラ目を大きく追加をしてございます。こちらは安全保障ということと宇宙の効果的、安定的利用というところが混在をしていて分かりにくいというご指摘を踏まえたものでございます。

要点を申し上げますと、我が国の安全保障環境が一層厳しさを増している中、安全保障能力を強化していくためにも、宇宙を効果的に活用していくということで、このような宇宙空間の安全保障上の重大性が増大しているというところがございます。このパラの下から3行目でございますけれども、宇宙基本計画では、宇宙空間の安定的利用の確保、宇宙を活用した我が国の安全保障の強化等を政策目標に掲げており、具体的な工程表を示しているとしております。

大きく飛んでいただきまして、10ページ目に行っていたいただければと思います。こちらはJAXAの取組方針の中の(3)宇宙科学探査分野における最高水準の成果創出及び国際的プレゼンスの維持・向上のところがございます。

まず1行目でございますけれども、先ほどの政策体系図のところでも申し上げた、国際的プレゼンスの維持・向上に重きが置かれ過ぎているという、委員からのご意見でございますけれども、こちらにつきましては、1行目で世界最高水準の科学成果の創出を目指し、宇宙科学研究を推進するとともにという文言を追加しております。

さらに(3)の下2行でございますけれども、こちらについては、この分野においても現状維持ではなくて、研究開発を推進していくという点が重要であるというご意見がございましたので、またといたしまして、長期的な視野から革新的な技術シーズの創出を目指す先端的な研究開発にも積極的に取り組むということを記載させていただいております。

おめくりいただきまして、11ページ目でございます。3ポツこちらが具体的なプロジェクトが、ここから始まりますけれども、宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施というところがございます。こちらにつきましては、中長期期間が7年間になるということで、柔軟に対応していくことが重要であるというご意見賜りましたので、なお書きといたしまして、個々のプロジェクトの実施に当たっては、将来の安全保障、産業動向、科学技術、国際情勢等の環境変化を踏まえ、柔軟に対応していくものとする追記をさせていただきます。

3. 1、衛星測位でございます。こちらにつきましては、磁気の測位システムについても、もう少し記載すべきではないかというご意見をいただきましてので、3. 1の下3行に記載をしております。我が国の測位システムの高度化、高精度測位配信サービスの実現、抗たん性強化等を念頭に衛星測位基盤技術に関する研究開発を行うことにより、我が国の測位システムの発展に貢献ということを追記しております。

3. 2、リモートセンシングでございます。こちらにつきましては、災害関係の書きぶりが弱いのではないかというご指摘をいただきましたので、下から3行目でございます。防災災害対策について、利用ニーズに対応したということで、利用ニーズに対応したところを追記しております。おめくりいただきまして、12ページ目でございます。1行目にこのニーズに対応した衛星データを提供することに一層貢献するというふうにしております。

続きまして、3. 3、衛星通信でございます。こちら大きく変わっておりますので、要点をご説明させていただきたいと思っております。2点、観点がございます、まず上から4行目の通信の秘匿性や抗たん性の向上が必要とされていると国民生活社会経済活動においても不可欠な存在になっており、大容量化等のニーズに対応した技術の高度化を求められている。その下3行程度下がっていただきまして、同時に経済成長に大きく貢献し得るものであるということで、2つ目のパラで、このため、我が国の安全保障や産業振興の観点から、一番下の行でございますけれども、情報通信研究機構（NICT）をはじめとする官民関係者との適切な役割分担のもと、研究開発を行う。これにより、衛星通信技術の国際競争力を強化するとしております。また、2020年代に世界の商業通信衛星市場において、現在と比してより多くのシェアを獲得することを目指す。さらに、次の最後のパラグラフでございますけれども、データ伝送の秘匿性の向上も念頭に光衛星通信技術の研究開発、実証を行うとしております。

再び大きく飛んでいただきまして、15ページ目から、3. 9の国際宇宙ステーションでございます、さらにおめくりいただきまして、この項目の中で中ほど、マーカー引いてございますけれども、さらに2020年までに、大学や民間事業者等とのより一層の連携強化を通じということで、この国際宇宙ステーションの「きぼう」が研究開発の基盤として産学官で広く利用される姿を書いたらどうかというご意見を踏まえまして、こちらを追記しております。また、下から5行目程度のところでございますけれども、マーカー引いてございます、アジア諸国や国連等から高い評価を獲得しというところで、こちら委員から

高い評価は結果として得られるものであり、目標に掲げることはいかなものかというご指摘ございましたけれども、こちらにつきましては、この書きぶりのままと、案としてはさせていただくとともに、国民の理解増進ということで、このあとの文言を充実したところがございますので、ご説明をさせていただきます。

続きまして、18ページ目に行っていたいただければと思います。こちら横断、分野横断的な研究開発等の取組の中の4点に基盤技術関係の記載でございます。こちら、委員からのご指摘で再使用宇宙システム技術が社会を先導するという理由が不明確であるということでしたので、括弧を開きまして、低コストで高頻度な宇宙輸送を可能とする技術ということで明示をさせていただきました。

続きまして、20ページに飛んでいただければと思います。こちら目標達成を支える重要事項のうち、まず1ポツ、横断的事項でございます。国際協力海外展開の推進(1)でございますけれども、こちら専門委員からのご指摘で、宇宙資源探査に関する記載がないというご指摘がございましたので、宇宙資源探査や軌道上活動といった先端的な宇宙活動ということを追記しております。

1.2の国民の理解増進・次世代人材育成、同じく20ページ目でございますけれども、(1)の国民的な理解の増進のところでは2行追加しております。宇宙航空研究開発の事業の推進には、ユーザであり出資者である国民の理解を得ることが不可欠であると追記をしているところでございます。

22ページ目に飛んでいただきまして、こちら1.5、施設・設備に関する事項といたしまして、委員からのご指摘を踏まえまして、老朽化対策やリスク縮減対策をはじめとする、中長期的な更新・整備・維持運用計画の立案・実施ということを追記しております。

3ポツ、法人共通の3.2、人事に関する事項でございますけれども、こちら委員からのご指摘を踏まえまして、一番下でございますけれども、生産性向上や女性を含む多様な人材の活躍推進に貢献するということを記載しております。

最後でございます。24ページ目でございますけれども、こちらは、財務内容の改善に関する事項のうち、自己収入の増加の促進のところでございます。こちらは委員からのご指摘で、JAXAの持つ資産、価値を利用した資金獲得も検討すべしというものがございましたので、JAXAの保有する様々な宇宙航空技術に関する知見の提供等の国内外の民間事業者及び公的研究機関との連携強化等を通じた外部資金の獲得に向けた積極的な取組により、自己収入の増加を促進するという形で追記をさせていただいているところでござ

います。

まず資料1の説明は以上でございますが、続きまして、資料3、4につきましても、ご説明をさせていただければと思います。

資料3につきましては、研究開発事項に関する部分についてでございますので、こちらは中長期目標に添付をされるものでございます。評価軸といたしましては、先ほどの中長期目標でございます、4つの取組方針、これに沿って分類をしております。さらに、それに対応する評価指標、モニタリング指標を右の列に書いてございます。

まず1つ目の取組方針、安全保障、安全・安心についてでございますけれども、こちらは評価軸といたしましては、取組の立案・検討・マネジメントですとか、成果が評価軸でございます。右側の評価指標、モニタリング指標ですけれども、評価指標の成果指標といたしましては、これらの取組の成果、マネジメントといたしましては、事前検討、マネジメントの状況、また、安全保障、防災関係機関等との外部との連携・協力の状況としております。

こちら、下のモニタリング指標のマネジメント指標に外部との連携・協力数という項目がございますけれども、委員からのご指摘で、連携数だけではなくて、質・内容・成果を精査する必要があるというご意見をいただいておりますので、評価指標のマネジメント指標のところ、連携・協力の状況ということで、質・内容・成果をこちらで精査をするというように修正をさせていただいております。

モニタリング指標といたしましては、成果指標が国際ベンチマークに照らした成果、マネジメント指標といたしましては、連携・協力数・外部資金等の獲得・活用状況というところでございます。こちらの外部資金等の獲得・活用状況につきましては、件数と金額を指摘、追加すべきであるというご意見をいただいておりますが、こちらは、この項目内でもJAXA内のプロジェクトで、複数にまたがるプロジェクトもあるため、集計が困難であるという状況も踏まえまして、後ほどの財務内容の改善のところで評価をしたいというふうに考えているところでございます。この点につきましては、後ほど、ご説明をさせていただきます。

続きまして、取組方針の2つ目の宇宙利用拡大と振興、産業振興の評価軸でございます。こちらは新事業創出ですとか、国際競争力強化に貢献するための立案・検討・マネジメントや成果が評価軸でございます。評価指標、右側でございます。これらの取組の成果として括弧を開いてございますけれども、品質・コスト・スケジュール等を考慮した取組を含

むということで、コスト削減の指標を、こちらに入れさせていただきます。マネジメント指標としては、事前検討、マネジメント、連携・協力の状況というところでございます。

モニタリング指標につきましては、おめくりいただきまして、裏面でございます。成果指標としては、国際ベンチマークに照らした成果、宇宙実証機会の提供数、社会還元・展開状況、新事業創出数、外部データ提供数といったところでございます。マネジメント等指標につきましては、先ほどの1つめの取組方針と同様でございます。

3つ目の取組方針でございます。宇宙科学・探査分野における世界最高水準の成果創出・国際的プレゼンスでございますけれども、こちらの評価軸といたしましては、これらの活動の立案・検討・マネジメントと成果が評価軸でございます。

評価指標等でございますけれども、まず評価指標の成果指標といたしましては、新たに世界最高水準の成果創出ということも評価指標として追記をしております。また、マネジメント指標につきましては、先ほどと同様でございます。

モニタリング指標につきましては、国際ベンチマークのほか、人材育成のための制度整備・運用の成果ということを記載しております。3ページ目でございますけれども、マネジメント等指標につきましては、外部との連携・協力数、人材育成のための制度整備の運用、論文数、外部資金というところでございます。

最後の4つ目の取組方針は航空科学技術分野でございますので割愛をさせていただきます。

この資料3が研究開発に係る評価指標等ございまして、目標に添付されるものでございます。

最後、資料4に行ってくださいと思います。こちらは前回提示できておらず、今回初めて、資料としてお見せするところでございます。こちらは中長期目標に添付するものではございませんけれども、目標の位置付けをより明確にするため、評価の視点と関連する指標というのを4府省で協議をして、現在、この案で協議をしているところでございます。

まず、IV.の目標を支える重要事項、1.横断的事項でございます。1.1.国際協力・海外展開ということで、評価の視点でございます。1つ目のポツが戦略的な国際協力により効率的・効果的な事業を推進するということで、右側の指標をいたしましては、これらの案件の創出の状況を指標としております。2つ目のポツでございますけれども、相手国の

社会基盤としての宇宙利用の定着に貢献するという一方で、右側の指標としては、相手国の社会基盤としての定着に貢献するための活動状況としております。3つ目のポツでございますけれども、法的基盤形成に貢献というところでございまして、右側の指標としては、この貢献する取組状況としております。最後、4ポツ目でございますけれども、国の政策立案ですとか、JAXAの事業企画立案に資する調査分析ということで、右側の指標としては、下2つのポツのでございますけれども、国の政策立案に資する情報提供ですとか、ホームページの利用頻度を指標として挙げております。

1.2. 国民の理解増進、人材育成でございますけれども、評価の視点の1つ目のポツで、説明責任、一層の理解増進というところで、関連する指標としては、広報活動の取組状況としております。2つ目のポツの評価の視点、未来社会を切り拓く人材育成に幅広く貢献する取組につきましては、指標といたしましては、教育支援ですとか、幅広い学習ニーズ、連携の構築状況というのを指標として挙げております。

1.3. プロジェクトマネジメント及び安全・信頼性の確保でございます。評価の視点といたしましては、事業の安全・確実な遂行、成果の最大化、国際競争力の向上といたしまして、これらに対する指標といたしましては、プロジェクトマネジメント能力の維持・向上、その実施状況客観的評価、評価結果の活用状況、またプロジェクトの初期的な検討や試行的な研究開発の活動状況、またミッションの喪失が生じた場合の原因究明、再発防止策、さらには安全・信頼性の維持・向上を指標として挙げております。

1.4. 情報システム、情報セキュリティでございますけれども、評価の視点といたしましては、事務的な業務の効率化、労働環境の改善ということで、対応する指標としては、JAXA内の共通的に利用する情報システムの整備・運用の状況としております。2つ目の評価の視点のポツでございます。外部とデータを共有するための情報システムの活用につきましては、評価指標といたしましては、そのための情報システムの基盤の整備・運用の状況としております。3つ目、安定的な業務運営に貢献するセキュリティ確保の取組につきましては、対応する指標はインシデントの発生防止、宇宙機の運用に不可欠な情報システムに対する対策強化としております。

めくっていただきまして、2ページ目でございます。1.5. 施設整備に関する事項の評価の視点でございますけれども、計画的な更新・整備・維持・運用により、円滑かつ効率的な推進ということで、関連する指標といたしましては、これからの状況及び2つ目のポツとして、重大事故や大規模災害に備えた老朽化対策・リスク縮減対策の状況、さらには

改善等への取組を関連指標として挙げております。

2. 情報収集衛星に係る政府からの受託につきましては、視点としては着実に業務が進められているかということで、関連指標は必要な体制の確立を含めた受託業務の実施状況としております。

3. 法人共通のうち、3.1. 内部統制でございます。こちらは理事長リーダーシップのもと、法令等遵守しつつ、合理的かつ効果的に業務を行うということと、2つ目のポツは不正を未然に防止する効果的な取組ということで、これらに対する関連指標としては、内部統制の点検状況、必要に応じた見直し状況、さらには研究不正対策の状況としております。

3.2. 人事に関する事項でございます。1つ目の視点が、社会に対し、技術で新しい価値を創造する組織を目指した取組が進められているかということにつきましては、関連指標を2つ挙げてございます。人事に関する計画の策定・進捗、さらには民との人材交流を含めた人員配置、人材育成等の状況としております。視点の2つ目でございます。労働環境の維持・向上に資する取組につきましては、関連指標としては労働環境の状況、女性を含む多様な人材の活躍推進状況としております。

V. 業務運営の改善・効率化に関する事項でございます。こちらにつきましては、視点といたしましては、社会を技術で先導し、新たな価値の創出に向けた体制の整備、こちらについては関連指標としては、組織体制の整備状況でございます。2つ目の視点として、調達に関しましては、関連指標として、調達等合理化計画に基づく取組状況でございます。3つ目の視点として、政府の方針従って、人件費の適正化等というところにつきましては、関連指標は給与水準の検証結果等の公表状況というところでございます。

最後3ページ目に行っていたきまして、VI. の財務内容の改善に関する事項でございます。視点といたしましては、適切な財務内容の実現、財務状況の公開に係る取組が進められているか、また新事業創出を進めていくための取組が図られているかというところでございますけれども、関連指標といたしましては、財務状況の開示状況及び自己収入の増加を促進する取組の状況というところでございます。先ほど、VI. の評価の指標でケアをすると申し上げたのは、こちらの2ポツの自己収入の増加を促進する取組の状況というところでございます。こちらでその方策ですとか金額について、評価指標としていくということを考えております。

資料1から4、雑駁でございますが説明は以上でございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。

それでは、JAXAから何か補足説明等ございましたら、お願いできればと思います。

【JAXA（山本）】 現時点で特にございません。

【梅比良部会長】 分かりました。

それでは、資料4つにまたがっていますけれども、委員、専門委員の皆様から質疑、あるいはご意見等ございましたらお願いできればと思います。よろしくお願いたします。

13ページ一番上、2行目のところから衛星通信技術の国際競争力を強化することで、我が国の民間事業者がと、ここで書いてあるのでもいいと思うんですけど、民間事業者が目指すんですね。現状と比して、より多くの視野を獲得できることを目指す。ちょっと主語が分かりにくいなと思ったんですけど、いかがでしょうか。獲得できるよう貢献するとかいうのが、多分、JAXAの立ち位置かなと思うんですけども。

【中谷推進官】 はい。そのような修正で調整をさせていただければと思います。ご指摘ありがとうございます。

【梅比良部会長】 分かりました。

よろしいですか。4つございますので、どれからでも結構です。

【藤野専門委員】 国際有人宇宙探査に関してですが、これは、第4期で目玉として入れたいという話でよろしいのですか。

【中谷推進官】 ご指摘ありがとうございます。こちら、前回の部会でもご指摘あった点かと思いますが、先般開催されました宇宙政策委員会で、政府としてこういう方針でやっていくというところを打ち出しておりますので、それを踏まえた形でJAXAにもこういう取組を目標として掲げていくべきであるというふうに考えているところでございます。

【藤野専門委員】 そういう意味では、政府として根拠が一応あるという話で、逆に、ここに書き込むと、JAXAの全体の予算の中から実施することになるが、それで大丈夫と、判断しているということよろしいですね。

【中谷推進官】 はい。ご指摘のとおりでございます。

【藤野専門委員】 分かりました。

【梅比良部会長】 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。今まで何回かやってきたところなので、そんなにいっぱいあったら、また困るといったら困るのですけれども。

【藤野専門委員】 もう1点いいですか。

【梅比良部会長】 お願いします。

【藤野専門委員】 JAXAさんへの質問になるかもしれないのですが、3.11のところ、追跡運用技術の研究開発を通じて、追跡管制及びデータ取得のためのシステムのより一層の効率化を実現しという具合に書いてあります。漏れ聞くとこころでは、つくばの追管をアウトソーシングするという話を聞いたが、それを指しているのでしょうか。その場合、一層の効率化には、なるが、研究開発を逆に放棄している気もする。事実関係を一つ確認いただければと思いますが。

【JAXA（山本）】 追跡管制業務につきましては、この間、JAXAのかなり長い運用の経験がありますので、この機に限らず、従前から定型的なものは極力JAXAの手を放して行っております。一方、追跡管制の中でも、今回出てきておりますけれども、探査という世界ですと、地球から離れた遠くの探査もあり、新しい、たくさんの衛星のコンステレーションを行うような運用も出てきますので、我々としては、まだまだ研究開発の余地がたくさん残っている部分があると考えておまして、しかるべき、こなれたところは極力手を放し、新しい追跡管制業務を研究開発としてやっていくという流れの一環であるのではないかと思いますけれども、目標としてどうかにつきましては、いろいろご議論があるかもしれません。

【藤野専門委員】 分かりました。研究開発と、アウトソーシングは、多分、2つ背反する概念だと思うので、書き方はちょっと難しいですね。

【梅比良部会長】 内容としてはよろしいですか。

【藤野専門委員】 内容は大丈夫です。

【梅比良部会長】 やっぱりできるところは手を放して、やっぱり本来あるべきところに集中したほうが、多分いいとは思いますが。

ほかにいかがでしょうか。私のほうから、ちょっと1点だけ。

資料3ですが、外部資金等の獲得・活用状況というふうに書いてあるのですが、これは活用状況は外部資金の活用状況という意味ですか。

【翁長宇宙通信政策課長】 ここはそのとおりです。

【梅比良部会長】 これはそういう意味ですか、分かりました。活用状況は要らないかなというふうに思ったのですが。

【翁長宇宙通信政策課長】 活用状況という言葉が要らないと言えば、要らないのかもしれませんが、獲得をして、外部資金ですので、それをきちんと活用するというか、それに基づいて研究成果を上げるとか、あとは、その外部資金によっては自由に使えるも

のもあるかもしれませんが、そういうものについては、ちゃんと J A X A の中で適切なところに使っている、活用しているというのも見てはどうかと。

【梅比良部会長】 分かりました。

【知野委員】 よろしいでしょうか。

資料4の1の1の関連する指標のところですけども、そこの一番下に調査情報提供ホームページの利用頻度というのがありますけれども、これは具体的にはホームページのどこに載っている情報のことを指しているのでしょうか。

【J A X A (石井)】 これは、第3期、今期中から始めたものなのですが、オープンにしているものではございません。政府の皆さんの中から活用したいというご希望を受けた場合にパスワードとかIDをお送りして、J A X A が蓄積している知見を活用していただくというものです。従前はいろいろな情報を、我々持っているんですけども、政府のご担当の方変わるたびに、いろいろなお話を、その都度やるというようなケースが散見される。そういったことを重複も減らし、かつタイムリーに見たいものをすぐ見ていただけるようにということで整備したものが、この調査情報提供のホームページといたしますか、社内の整備したシステムでございます。

【知野委員】 そうすると、一般の人が見られるわけではないのですね。

【J A X A (石井)】 はい、そうです。

【知野委員】 指標としてどうなのでしょう。

【J A X A (石井)】 ただ、私が申し上げるのもなんですが、左の評価の視点が国の政策立案ということがありましたので、そういうところにご活用いただけたということを見ていただくかなというふうに思いました。

【知野委員】 なるほど、そういうことですか。

【梅比良部会長】 登録者数とかアクセス回数とか、どれだけ見ていただいたかということですよ、きっと。

【J A X A (石井)】 はい。

【梅比良部会長】 よろしいでしょうか。最後に、こういうことは言わずもがなですけど、資料4のところ、最後に自己収入の増加を促進する取組の状況ということで、これを入れていただいたんですけど、私も何回か意見を申し上げたと思うんですけど、要は、今までの運営資金、交付金だと J A X A がやっぱりなかなか自分でやるべきだという話が、なかなかできないというお話が理事長さんから、ほとんど自由になるお金はな

いんですよというようなお話があつて、かといって運営交付金を増やしてくださいというのは、このご時世でとっても言えない。そうすると、やはりこのような格好でやられたらどうかと思つて、こういうふうをお願いをしたのですが、これは、JAXAさんのほうから見て、やはりこういうふうに自由できるという部分を増やしてやったほうがいいというふうに思つていただけているかどうかというのを、ちょっとお伺ひしたかったんです。

【JAXA（山本）】 もちろん自由に使うという意味からは、我々としては助かると思いますか、いいことだとは思いますが、それも1つありますけれども、やはり自己収入というか、外のお金が獲得できるというのは、我々の価値を高める、あるいは認めていただくという1つの指標にもなるので、積極的に自己、外のお金もいただけるように、認めていただけるような活動を、これからやっていかないといけないという、そういう位置付けも大きいと思つております。

【梅比良部会長】 そう思つていただけるのだったら、分かりました。あんまりこんなことを言わせないでくれと、金もうけをする機関じゃないんだなというふうに思つておられるかなというふうに思つておりましたものですから。これは確認までです。

いかがでしょうか、ほかに。よろしいですか。

それでは、以上で、あんまり意見とかも、この程度で出したようですので、次に移らせていただきたいと思います。

（2）その他

【梅比良部会長】 議題の2、その他に移らせていただきたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

【中谷推進官】 本日初見の資料もございましたので、改めてご意見ありましたら、来週12月12日の火曜日までにいただきたいと思います。別途、メールでフォーマットを送らせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それを受けまして、本日のJAXA部会の親会を12月20日水曜日の10時から予定をしているところでございます。場所は同じく総務省のこちらの会議室でございますので、ご出席のほどよろしくお願ひいたします。

その親会を経まして、最終的な第4期中長期目標につきましては、所管4府省及び財務

省と協議をいたしまして、総務省独立行政法人評価制度委員会のご意見を踏まえ、決定をすることとしております。決定された暁には、別途ご連絡を差し上げたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。

それでは、先ほどご案内がありましたように、もしそれ以外のコメントとかご意見、ございましたら、持ち帰って読んでいただきまして、事務局さんのほうでよろしいですか。

【中谷推進官】 はい。

【梅比良部会長】 お送りいただければと思います。

ありがとうございました。

それでは、以上で本日の議題は終了となります。委員の皆様から、ほかに何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、本日のJAXA部会はこれにて閉会とさせていただきますと思います。今日はどうもありがとうございました。